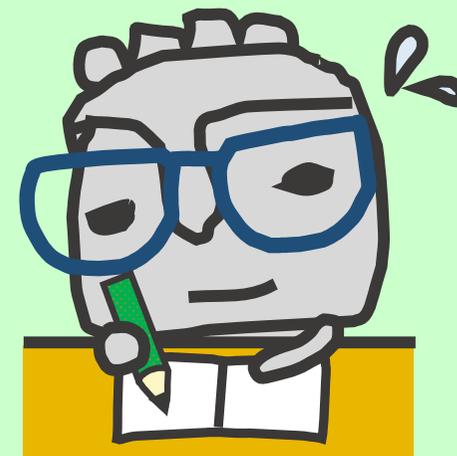


令和7年度

# 全国学力・学習状況調査 臼杵市各教科・質問紙調査の分析

令和7年4月17日(木)実施  
小学校(国語・算数・理科)  
中学校(国語・数学・理科【CBT】)  
質問紙調査



臼杵市教育委員会 学校教育課

## ■結果のポイント

### 1 調査結果【正答率】

市	県	全国
70.0	69.0	66.8

○県・全国平均を上回る。

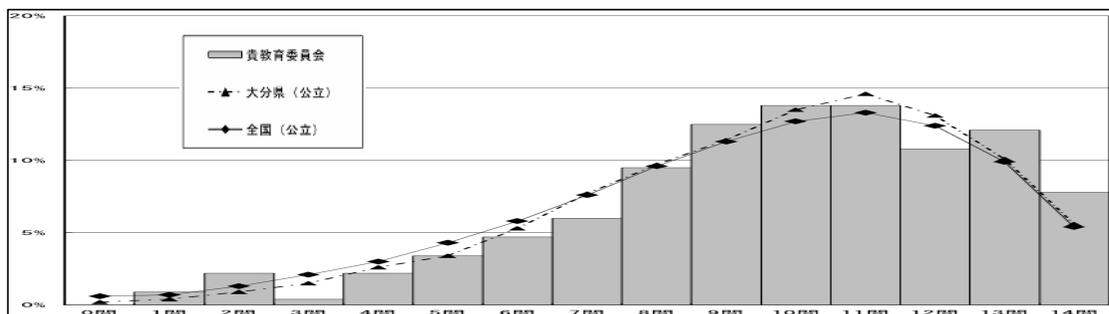
### 2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	82.5	83.8	76.9
情報の扱い方に関する事項	63.4	63.4	63.1
我が国の言語文化に関する事項	87.1	82.9	81.2
話すこと・聞くこと	65.2	65.8	66.3
書くこと	70.1	70.6	69.5
読むこと	63.6	59.8	57.5

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」の領域で全国平均を上回る。

▲「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均を下回る。

### 4 正答度数分布



○低学力層の児童の割合(6問以下)が県・全国平均より少ない。

○正答数が全国平均以上(10問以上)の児童の割合は県・全国平均を上回る。

### 3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	78.9	78.5	74.5
思考・判断・表現	66.0	64.9	63.8

○全ての観点で県・全国平均を上回る。

■ 課題が見られた問題【正答率:低】

大問1ー

	市	県	全国
正答率	52.6	52.1	53.3

【問題の概要】

【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する

【出題の趣旨】

目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるか

【課題】

■小森さんの「聞くことができるかもしれないよ。」という発言などから、自分たちが聞きたいという意図よりも、相手が答えやすいように質問を考えていると捉えたと考えられる。

問題文と資料のスクリーンショット。資料1-4は、話し合いの場面で使われた発言の断片である。問題では、資料1の傍線部「聞くことができるかもしれないよ。」について、適切な説明を選択する。

◆ 指導の改善

知りたいことについて、自分が知っていることや予想したこと、疑問に感じていることなどを聞く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることが重要です。

また、知りたいことを聞くという目的に加えて、相手の答えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、聞くときの場面や状況を意識することも大切です。

■ 課題が見られた問題【正答率:低】

大問3三(1)

	市	県	全国
正答率	46.6	39.8	40.8

【問題の概要】

【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する

【出題の趣旨】

目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるか

【課題】

■目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

■誤答の「2」は、「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを「本来の意味」「本来とは違う使い方」であると考え、複数の資料を結び付けようとしたが、必要な情報を整理し切れなかったと考えられる。

資料1-4の関係を整理した図表と、田中さんの発言の空欄Aに関する説明。田中さんは「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」という点で悩んでいる。

◆ 指導の改善

複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読むことが重要である。その際、それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結び付くのか視覚的に明らかにしながら読む指導を行うことが効果的である。

## ■結果のポイント

### 1 調査結果【正答率】

市	県	全国
64.0	60.0	58.0

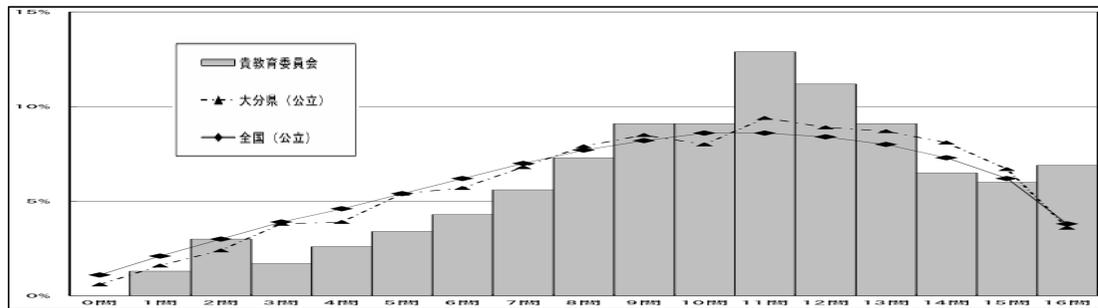
○県・全国平均を上回る。

### 2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
数と計算	67.7	63.3	62.3
図形	63.7	60.0	56.2
測定	61.2	55.8	54.8
変化と関係	60.5	57.2	57.5
データの活用	66.0	63.0	62.6

○全ての領域で県・全国平均を上回る。

### 4 正答数度数分布



○低学力層の児童の割合(5問以下)が県・全国平均より少ない。  
○正答数が全国平均以上(11問以上)の児童の割合は県・全国平均を上回る。

### 3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	73.3	68.2	65.5
思考・判断・表現	51.7	48.9	48.3

○全ての観点で県・全国平均を上回る。

## ■ 課題が見られた問題【正答率:低】

大問1(2)

	市	県	全国
正答率	34.1	32.8	31.0

### 【問題の概要】

都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く

### 【出題の趣旨】

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

### 【課題】

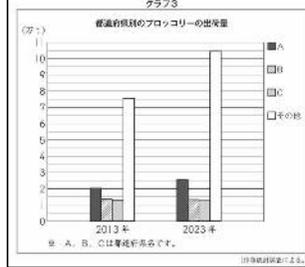
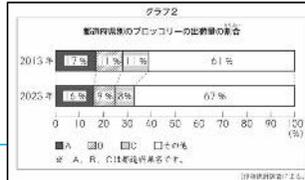
■ グラフ2だけを見て、割合が減ったと判断していると考えられる

図1: ありさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、次のグラフとグラフ2を見つめました。

グラフ2: グラフ2とグラフ3を見比べて、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかがわかります。

2013年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は、2013年より増えたかどうかを、下の「ア」または「イ」を選んで、その理由を書きましょう。また、その記述を添ったわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこの部分に注目したのかを必ず書きましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。  
イ 2023年は2013年より減った。



## ◆ 指導の改善

- ① 様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を分かりやすく表現できるようにすることが大切である。
- ② 各帯グラフの量の合計が異なっている複数の帯グラフについては、同じ項目で比較する場合、割合が小さい方が実際の量としては大きいことがあるなど、見た目では量の大小が比較できないことを理解できるようにすることも大切である。

## ■ 課題が見られた問題【正答率:低】【無回答率:高】

大問3(2)

	市	県	全国
正答率	25.0	23.6	23.0
無回答率	12.1	13.2	15.7

### 【問題の概要】

$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数のいくつ分になるかを書く

### 【出題の趣旨】

分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

### 【課題】

■ 通分については記述しているものの、共通する単位分数が $1/12$ であることと、 $3/4$ と $2/3$ がそれぞれ共通する単位分数のいくつ分かは記述できていない。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えるように思っています。

まず、みおさんは、 $2/5 + 1/5$ についてまとめています。

みおさん:  $2/5$ は $1/5$ の2個分、 $1/5$ は $1/5$ の1個分です。  
 $2/5 + 1/5$ の計算は、 $1/5$ をもとにすると、 $2 + 1$ を覚えて考えることができます。

$2/5 + 1/5$ は、もとにする数を $5$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $3/4 + 2/3$ について考えています。

ひろとさん:  $3/4$ は $1/4$ の3個分、 $2/3$ は $1/3$ の2個分です。  
もとにする数が $1/4$ と $1/3$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$3/4 + 2/3$ についても、もとにする数を用い数にして考えることができます。  
もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $3/4$ はその数の何個分、 $2/3$ はその数の何個分ですが、数が異なるので書けません。

## ◆ 指導の改善

分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見出すことで、既習の整数の加法に帰着できるようにすることが大切である。

## ■結果のポイント

### 1 調査結果【正答率】

市	県	全国
62.0	60.0	57.1

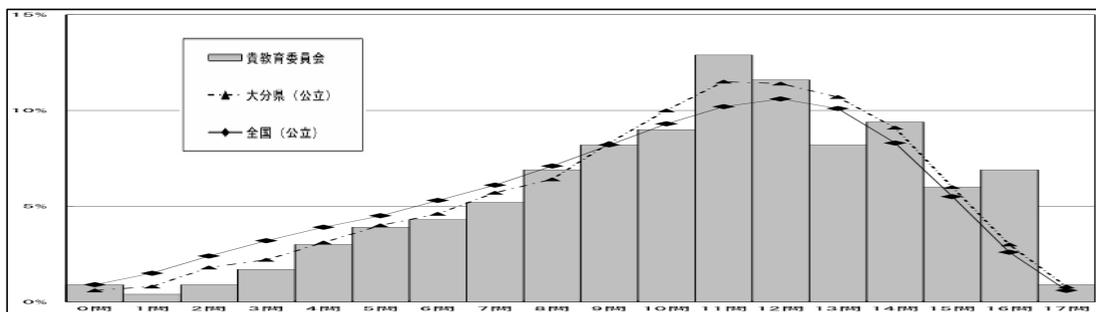
○県・全国平均を上回る。

### 2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
エネルギー	53.4	51.8	46.7
粒子	54.0	52.7	51.4
生命	57.9	55.1	52.0
地球	71.1	69.2	66.7

○全ての領域で県・全国平均を上回る。

### 4 正答数度数分布



○低学力層の児童の割合(6問以下)が県・全国平均より少ない。  
○正答数が全国平均以上(11問以上)の児童の割合は県・全国平均を上回る。

### 3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	60.2	59.0	55.3
思考・判断・表現	63.4	60.7	58.7

○全ての観点で県・全国平均を上回る。

■ 課題が見られた問題【正答率:低】

大問2(2)

	市	県	全国
正答率	48.9	43.5	42.9

【問題の概要】

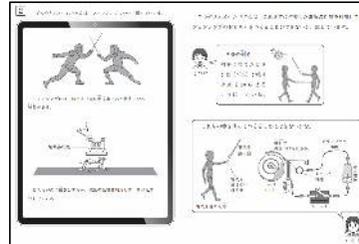
電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ

【出題の趣旨】

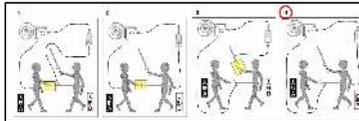
電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる

【課題】

- 回路中にある「電気を通さない持ち手」を見いだすことができていないと考えられる。
- 電気が通る回路の作り方に関して理解し、表現することに課題がある。



2 (2)「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね(ベル)が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



■ 課題が見られた問題【正答率:低】【無回答率:高】

大問3(4)

	市	県	全国
正答率	37.8	34.4	29.9
無回答率	8.6	8.7	11.4

【問題の概要】

レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く

【出題の趣旨】

レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる

【課題】

- 新たな問題は見いだしているものの、その問題について、適切に表現することができていないと考えられる。
- レタスの種子の発芽の条件について、既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することに課題がある。

3 みかひろさんは、レタスの種子を発芽させようとしています。

レタスの種子を育てようとして、水、空気、温度の条件を下のまじりにしたのに、いつも発芽しませんでした。

みかひろさんが行った実験

【条件】  
 ・水あり  
 ・空気あり(種子が空気にさらされている)  
 ・温度(室温)  
 ・目元なし(箱を閉じている)  
 ・肥料なし

水、空気、温度のほかに、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるかもしれない。レタスの種子が発芽するために、必要な条件を、上の【条件】の中から1つ選んで調べてみよう。

てるみ

(4) てるみさんは、調べてみたことをもとに、新たな【問題】を見つけた。てるみさんは、どのような【問題】を調べたいと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

◆ 指導の改善

- 図の意味を理解し、回路がつながっているかどうかを確認するなど、**実験の計画を振り返ったり、修正したりする活動を設ける。**
- 観察、実験の結果や結論を、図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関連付けて理解を深めることが大切である。
- 「ものづくり」でできた装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構成したりするなどして、学習を通して得た知識の理解を深めることが大切である。

◆ 指導の改善

- 問題や予想、結果などで自分の考えを表現する際に、**誰もが理解できるような言い回しを用いて表現したり、考えた過程が分かるように表現したりすることができるようにする。**
- 考えたことを科学的な言葉を使用して表現する活動を充実させる。
- 差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目し、問題を見いだすことができるようにする。

## ■ 結果のポイント

### 1 調査結果【正答率】

市	県	全国
57.0	53.0	54.3

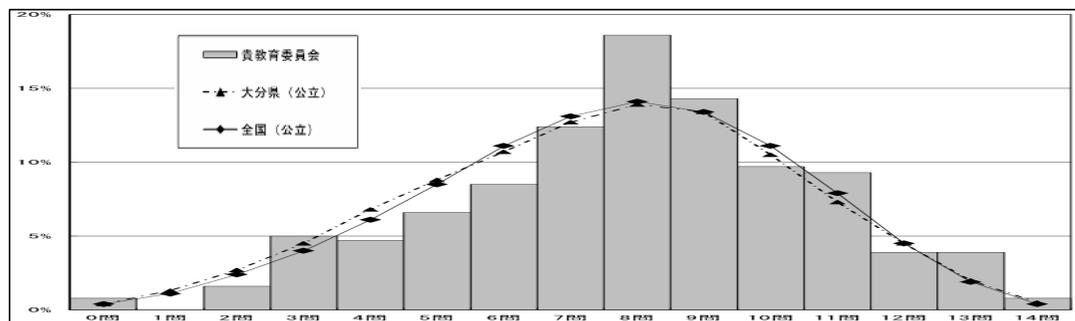
○県・全国平均を上回る。

### 2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	52.9	46.5	48.1
情報の扱い方に関する事項	—	—	—
我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
話すこと・聞くこと	53.7	52.1	53.2
書くこと	57.2	52.7	52.8
読むこと	62.0	61.1	62.3

○全ての領域で県・全国平均を上回る。

### 4 正答数度数分布



▲低学力層の児童の割合(5問以下)が県・全国平均より多い。  
○正答数が全国平均以上(8問以上)の児童の割合は県・全国平均を上回る。

### 3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	52.9	46.5	48.1
思考・判断・表現	57.2	54.6	55.3

○全ての観点で県・全国平均を上回る。

■課題が見られた問題【正答率:低】

大問2(二)

	市	県	全国
正答率	73.3	76.2	77.9
無回答率	0.4	0.3	0.3

【出題の趣旨】

相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することがどうかをみる問題(話すこと・聞くこと)

【問題の概要】

学校の活動を地域に広げるアイデアに関するスピーチのリハーサルに、助言をするという設定の大問。スピーチ原稿とスライド資料を読んで、聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する問題。

【課題】

- スピーチ原稿とスライド資料の両方を合わせて読み取ることができていない。
- 聞き手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができていない。

◆指導の改善

- ・学校や社会に関するテーマで、スピーチをする・スピーチを聞く経験が少ない。
- ・聞き手の立場や経験を踏まえてスピーチを考える経験を積んでいない。

☆指導の具体【臼杵市で取り組むこと】

- ・自分に関する話題だけでなく、様々なテーマでスピーチなどの話すこと聞くことの活動をする必要がある。その際、聞き手の立場や経験を踏まえて、言葉や言い回しを変えたり原稿には元々なかったことを付け加えたりさせる。
- ・物語を読んで、作者の意図やその効果について語り合う活動など、読むことにおいて、自己の考えを形成したり共有したりする学習活動が必要である。

■課題が見られた問題【正答率:低い】【無解答率:高】

大問3(一)

	市	県	全国
正答率	17.4	15.6	17.1
無回答率	29.1	33.7	28.1

【出題の趣旨】

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる(読むこと)

【問題の概要】

物語の二つの章段を比べて読み、その違いによる効果について自分の考えを書く。

【課題】

- 「どのような効果があるかを書く」と「物語の内容を適切に取り上げて書く」条件はできているが、『あとに続く話』が『一 榎木の実』にはあるが、『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書く条件はできていない。つまり、誤答者は条件を踏まえて書こうとしているものの、物語の展開について根拠を明確にして考えることができなかったと考えられる。
- 無解答者は、三つの条件で書くことができなかったのではないか。

◆指導の改善

- ・物語の構成や展開について、根拠を明確にして話したり書いたりする活動が不足している。

## ■ 結果のポイント

### 1 調査結果【正答率】

市	県	全国
48.0	45.0	48.3

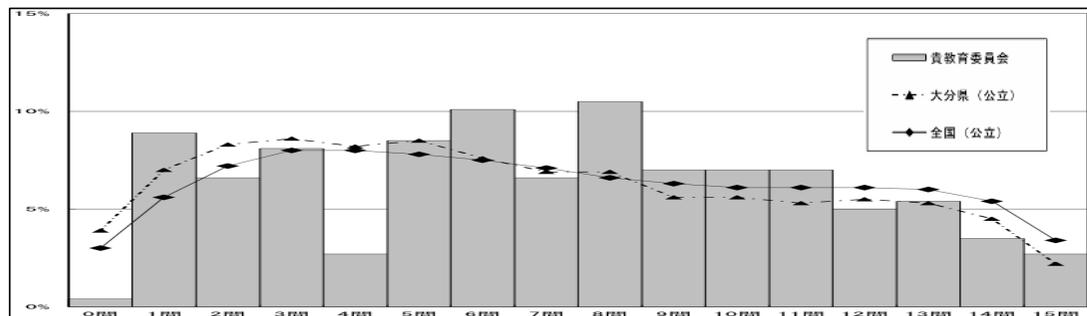
▲県平均は上回ったが、全国平均を下回る。

### 2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
数と式	40.3	39.9	43.5
図形	46.2	42.0	46.5
関数	51.0	45.3	48.2
データの活用	60.2	55.6	58.6

○「関数」「データの活用」の領域で県・全国平均を上回る。  
▲「数と式」「図形」の領域で全国平均を下回る。

### 4 正答数度数分布



▲低学力層の児童の割合(3問以下)が県平均より少ないが、全国平均より多い。  
○正答数が全国平均以上(7問以上)の児童の割合は県・全国平均を上回る。

### 3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	54.5	51.2	54.4
思考・判断・表現	38.2	34.8	39.1

○「知識・技能」の観点で県・全国平均を上回る。  
▲「思考・判断・表現」の観点で全国平均を下回る。

## ■課題が見られた問題 【正答率:低】

大問1	正答率	市	県	全国
		22.1	24.8	31.8

### 【問題の概要】

1 から 9 までの数の中から素数をすべて選びなさい。

### 【ねらい】

素数の意味を理解しているかどうかをみる

### 【正答例】

2 3 5 7

### 【考えられる原因】

素数は、「1とその数自身の積の形でしか表せない数。」であるが、1を素数として捉え素数として選択している。

## ◆指導の改善

☆用語の意味をきちんと理解していないので、用語と意味をしっかりと結び付けて覚える必要がある。

## ☆指導の具体【臼杵市で取り組むこと】

- ・学校別の分析をいかしたフォローアップや授業改善策が必要である。特に、誤答の内容を細かく分析し、校内で共有しながら授業の中でフォローしていく。
- ・数学用語を授業の中で活用させながら、用語の意味を理解させていく必要がある。
- ・数の規則性を具体的な数を予想させるを通して、さらに文字式に表して一般化して考える時間を授業の中で確保する。
- ・今後も日常生活と関連付けた問題を授業で扱い、授業で説明する場面を増やしていく。

## 大問6(1)

### 【問題の概要】

(1) 祐菜さんは、これらの計算の結果から、「連続する2つの3の倍数の和は、いつでも9の倍数になる」と予想しました。

しかし、この予想は成り立たない。この予想が成り立たないことを下のように説明します。下の ① から ③ までに当てはまる整数をそれぞれ書き、説明1を完成しなさい。

### 説明1

連続する2つの3の倍数が、例えば、①、② のとき、① + ② を計算すると、和は ③ となり、9の倍数ではない。

したがって、「連続する2つの3の倍数の和は、いつでも9の倍数になる」という予想は成り立たない。

### 【考えられる原因】

2つの数を3の倍数を答えてはいるが、連続する3の倍数を答えることができていない。  
2つの連続する3の倍数は選択しているが、和が9の倍数になっていて問題の意図とあっていない。

正答率	市	県	全国
	57.0	57.7	62.8

### 【ねらい】

事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる。

### 【正答例】

①②に連続する2つの3の倍数を解答。  
③に①②の和を正しく計算し、9の倍数になる数を解答。

## ◆指導の改善

☆連続する3の倍数には、どんな数があるのか予想させ、その中から反例となる事例を選択する必要がある。

## ■ 結果のポイント

### 1 調査結果【正答率】※CBTのためIRTスコアとしての数値

市	県	全国
524	501	503

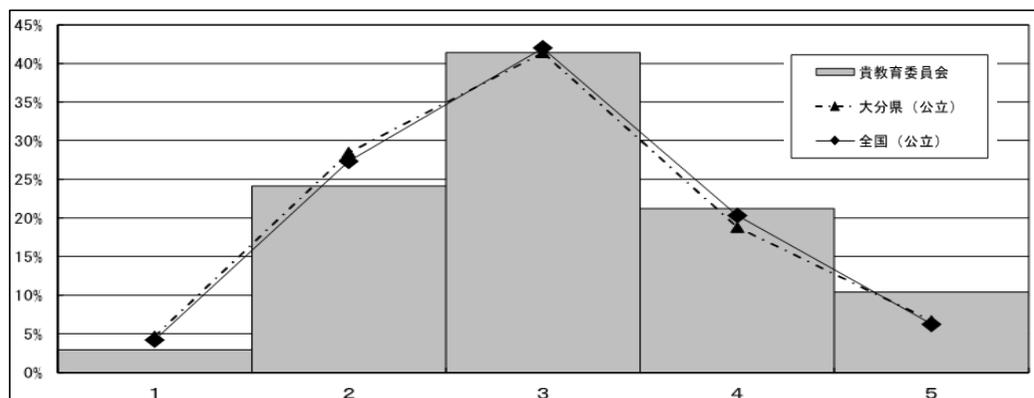
○県・全国平均を上回る。

### 2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
エネルギー	55.8	54.0	56.1
粒子	64.8	57.5	59.8
生命	49.6	50.5	45.8
地球	40.7	36.2	37.3

○「粒子」「生命」「地球」の領域で全国平均を上回る。  
▲「エネルギー」の領域で県平均または全国平均を下回る。

### 4 IRTバンド分布グラフ (横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



### 3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	68.2	65.0	65.4
思考・判断・表現	41.0	37.0	38.0

○全ての観点で県・全国平均を上回る。

■課題が見られた問題【正答率:低】

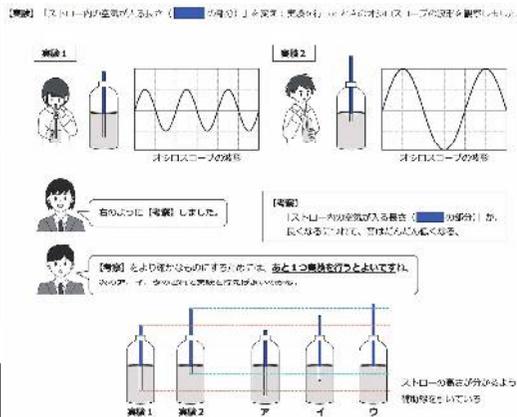
大問2(1)

正答率	市	県	全国
	13.6	9.8	14.0

【ねらい】  
【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる。

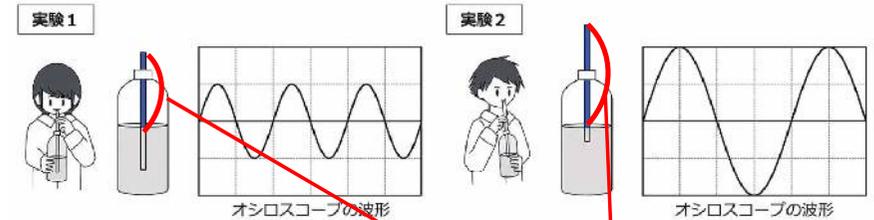
【正答例】  
例1 ア 実験1、2より振動数が多いことが分かればよい。  
例2 イ 振動数が実験1、2の間であることが分かればよい。 等

【考えられる原因】  
選んだ実験により、実験1、実験2と比べて振動数がどのように変化するかを考察し、正しく文章に表して説明できる力が身につけていない。



☆指導の具体【学年・学校で取り組むこと】

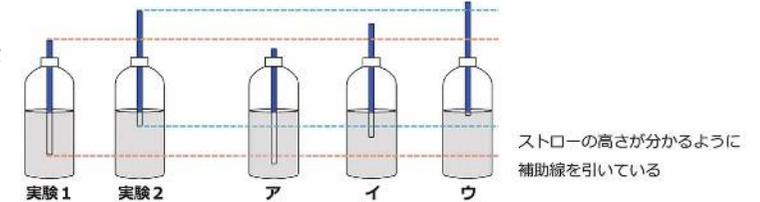
ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり科学的に探究する場面において、量的・関係的な見方を働かせて、音の高さに関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。



実験1と実験2を比較すると、ストロー内の空気の長さ（音の高さ）の関係は右の表のようになる。このことから、ストロー内の空気の長さ（音の高さ）には規則性があることが考えられる。

	ストロー内の空気の長さ	振動数（音の高さ）
実験1	短い	多い(高い)
実験2	長い	少ない(低い)

実験1、実験2ストロー内の空気の長さが異なるア・イ・ウの振動数(音の高さ)を考え、期待される結果を「振動数」という言葉を使って、文章で表現させるようにする。簡単な実験なので、一人ひとり体験させるようにするとよい。 ※ペットボトルに入れる水の量を変えると音の高さ（音の高さ）が変化する。



◆指導の改善

ストロー内の空気の長さ（音の高さ）との関係性を見だし、その考えをより確かなものにするために追加する実験はどれかを判断し、その結果どのように音の高さ（音の高さ）が変化するのか、用語を用いて説明する表現力が必要である。

# 児童・生徒質問調査結果「勉強が好き」「勉強が分かる」

## 小学校

教科	市	県	全国
国語	61.7	64.2	58.3
算数	64.8	60.8	57.9
理科	79.1	79.1	80.1

- 算数が県・全国平均を上回る。
- ▲国語が県平均を下回る。
- ▲理科が全国平均を下回る。

教科	市	県	全国
国語	89.3	86.5	82.8
算数	86.6	81.3	78.3
理科	92.5	89.8	88.9

- 県・全国平均を上回る。

## 中学校

教科	市	県	全国
国語	70.0	61.0	57.9
数学	52.6	53.7	53.8
理科	73.5	68.8	63.8

- 国語・理科が県・全国平均を上回る。
- ▲数学が県・全国平均を下回る。

教科	市	県	全国
国語	85.1	77.9	77.0
数学	72.1	66.7	70.3
理科	76.0	74.3	71.4

- 県・全国平均を上回る。

教科の勉強はどれくらい好きですか。  
(肯定的回答割合)

教科の勉強はどれくらい分かっていきますか。  
(肯定的回答割合)

# 児童・生徒質問調査結果から見える授業改善の現状①

## 小学校

## 中学校

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。  
【課題解決】

市	県	全国
79.1	81.5	80.3

市	県	全国
76.0	76.9	77.7

各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。【まとめ】

市	県	全国
77.5	78.6	77.8

市	県	全国
71.0	72.8	70.6

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。  
【振り返り】

市	県	全国
85.4	84.9	82.5

市	県	全国
75.2	74.5	73.4

○【振り返り】が県・全国平均を上回る。

▲【課題解決】【まとめ】が県または全国平均を下回る。新大分スタンダードの徹底が必要

## 児童・生徒質問調査結果から見える授業改善の現状②

学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか。【対話活動・深い学び】

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか。【日常生活への活用】

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。【発表・表現の工夫】

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。【協働的な学び:非認知能力】

### 小学校

市	県	全国
87.3	86.4	84.9

市	県	全国
85.4	84.9	82.5

市	県	全国
56.9	63.4	68.6

市	県	全国
91.3	93.1	91.9

### 中学校

市	県	全国
89.4	85.9	84.7

市	県	全国
76.3	76.6	74.8

市	県	全国
46.6	54.6	63.0

市	県	全国
95.7	91.7	91.9

○【対話活動・深い学び】【小:日常生活への活用】【中:協働的な学び】が県・全国平均を上回る。

▲【中:日常生活への活用】【表現の工夫】【小:協働的な学び】が県または全国平均を下回る。

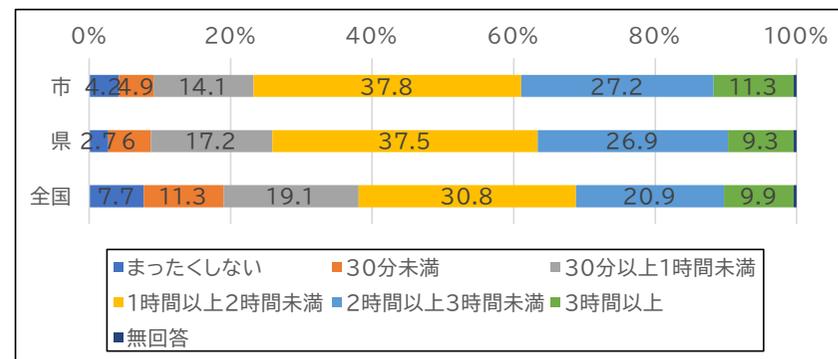
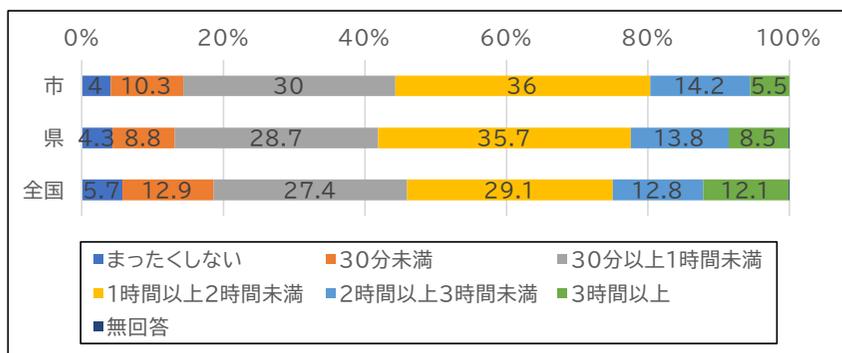
小・中:【発表・表現の工夫】・小:協働的な学び【非認知能力】への授業改善が必要

# 児童・生徒質問調査結果から見える学習習慣の現状

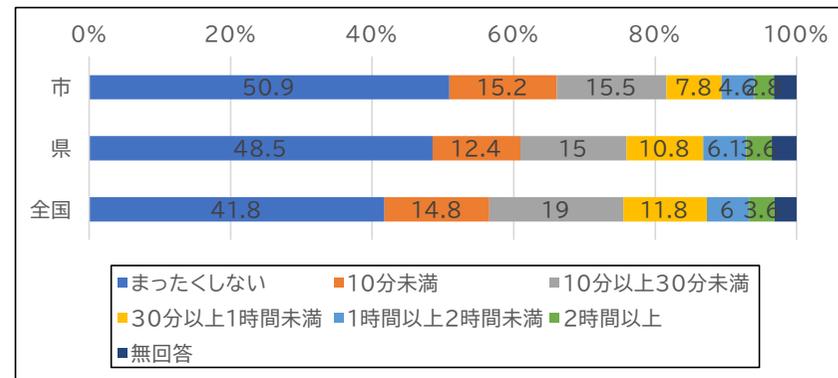
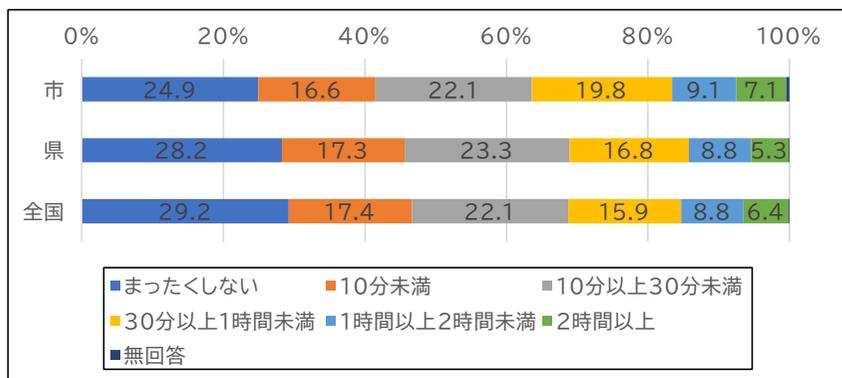
## 小学校

## 中学校

学校の授業以外に、平日(月～金)1日どれぐらいの時間、勉強をしますか。(塾などでの勉強時間も含みます)



学校の授業以外に、平日(月～金)1日どれぐらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



# 学校質問調査結果から見える授業の現状

授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。

小学校

市	県	全国
92.3	88.9	85.9

中学校

市	県	全国
100.0	88.1	92.0

算数(数学)の授業において、授業で、学習上つまずいた児童に対する対応を行えていましたか。【習熟の程度に応じた指導の充実】※1.そう思うの回答率

市	県	全国
76.9	57.4	49.1

市	県	全国
80.0	56.8	43.8

理科の授業において、問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行いましたか。  
※1.そう思うの回答率

市	県	全国
38.5	46.7	43.9

市	県	全国
40.0	40.7	37.0

- 【授業中の私語が少なく、落ち着いている】が、県・全国平均を上回る。
- 算数(数学)の授業において、【習熟の程度に応じた指導の充実】が県・全国平均を上回る。
- ▲理科の授業において、予想や仮説を発想することができるような指導が、県または全国平均を下回る。

# 学校質問調査結果から見える授業改善の現状

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。【対話活動・まとめ・表現】

※1. そう思うの回答率

授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか。【個別最適な学び】

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか。【協働的な学び・非認知能力】

※1. そう思うの回答率

## 小学校

市	県	全国
23.1	33.6	31.6

市	県	全国
69.2	61.9	64.1

市	県	全国
7.7	36.5	35.0

## 中学校

市	県	全国
40.0	31.4	27.5

市	県	全国
100.0	58.5	56.6

市	県	全国
60.0	44.9	35.6

○【個別最適な学び】が県・全国平均を上回る。

▲【小:対話活動・まとめ・表現】【小:協働的な学び・非認知能力】が県・全国平均を下回る。

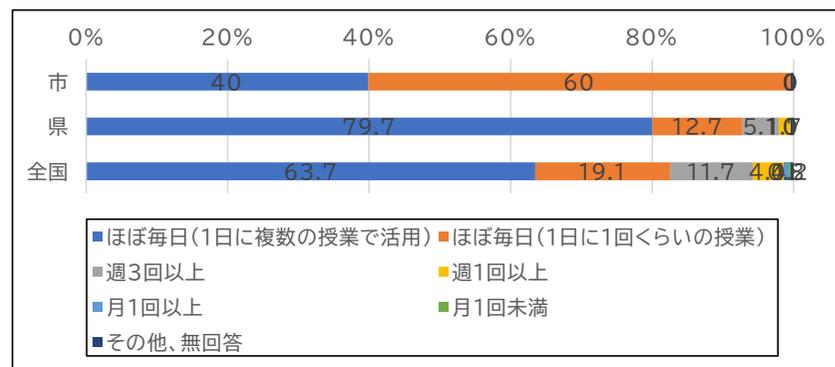
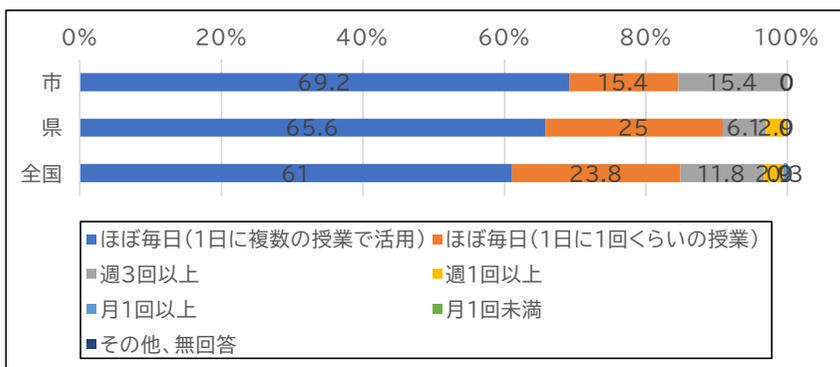
小:協働的な学び【非認知能力】へのより確かな授業改善が必要

# 学校質問調査結果から見えるICTの活用の現状

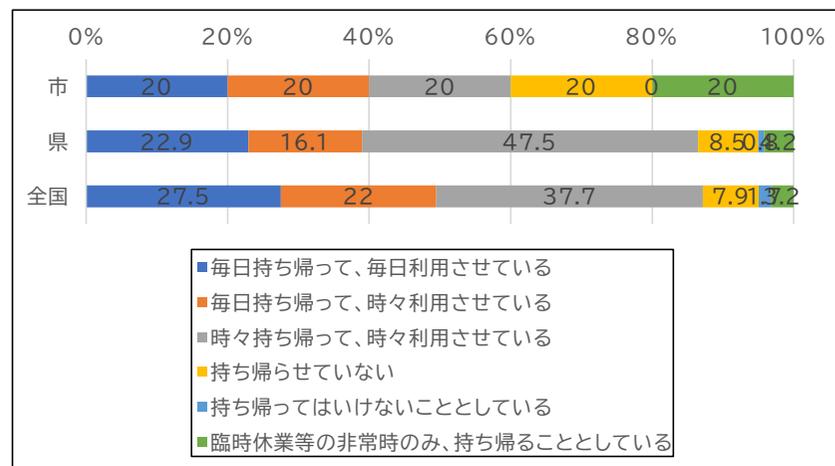
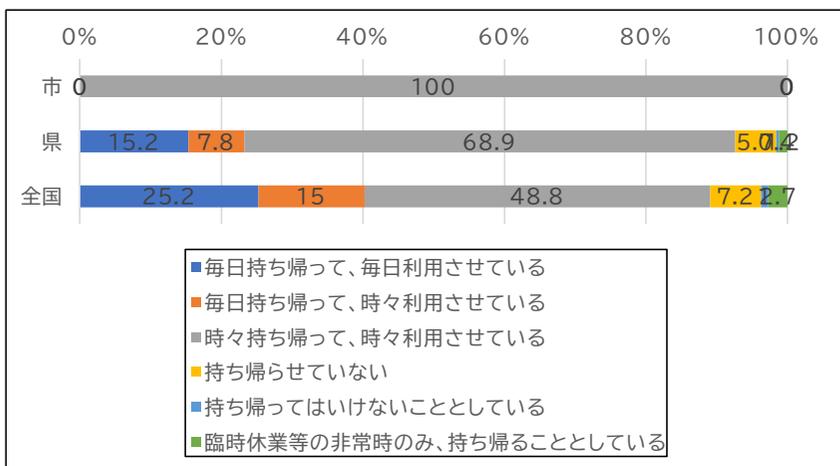
## 小学校

## 中学校

児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。



児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。



# 【 臼 杵 市 】

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調査）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問調査

- 【勉強が好き】○算数が県・全国平均を上回る。▲国語が県平均を下回る。▲理科が全国平均を下回る。  
【勉強が分かる】○国語・算数・理科が県・全国平均を上回る。  
○【振り返り】が県・全国平均を上回る。  
▲【課題解決】【まとめ】が県または全国平均を下回る。  
○【対話活動・深い学び】【日常生活への活用】が県・全国平均を上回る。  
▲【表現の工夫】【協働的な学び】が県または全国平均を下回る。  
○【勉強時間】1時間以上:全国平均を上回る。  
○【読書時間】10分以上:県・全国平均を上回る。

#### 生徒質問調査

- 【勉強が好き】○国語・理科が県・全国平均を上回る。▲数学が県・全国平均を下回る。  
【勉強が分かる】○国語・数学・理科が県・全国平均を上回る。  
○【振り返り】が県・全国平均を上回る。  
▲【課題解決】【まとめ】が県または全国平均を下回る。  
○【対話活動・深い学び】【協働的な学び】が県・全国平均を上回る。  
▲【日常生活への活用】【表現の工夫】が県または全国平均を下回る。  
○【勉強時間】1時間以上:全国平均を上回る。  
▲【読書時間】10分以上:県・全国平均を下回る。

### 2 臼杵市の児童・生徒質問調査の調査結果をふまえて

#### 新大分スタンダードの徹底

##### 【主体的な学びに向かう課題の位置付け】

導入時に児童生徒の思考の流れをつかみ、見通しを持たせて、自ら課題を位置付ける等の授業改善が必要である。また、つけたい資質・能力を明確に、ねらいや課題、まとめ、評価基準の整合性を持たせた授業展開も必要である。

##### 協働的な学びの授業改善

思考力・判断力・表現力を働かせながら、非認知能力も育成していく授業改善が必要である。

# 【 臼 杵 市 】

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問調査）

### 1 調査結果の概要

#### 小学校：学校質問調査

- 【授業中の私語が少なく、落ち着いている】が、県・全国平均を上回る。
- 算数の授業において、【習熟の程度に応じた指導の充実】が県・全国平均を上回る。
- ▲理科の授業において、予想や仮説を発想することができるような指導が、県または全国平均を下回る。
- 【個別最適な学び】が県・全国平均を上回る。
- ▲【対話活動・まとめ・表現】【協働的な学び】が県・全国平均を下回る。
- 児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、ほぼ毎日授業で活用している。
- ▲児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、毎日持ち帰って、毎日利用していることはしていない。

#### 中学校：学校質問調査

- 【授業中の私語が少なく、落ち着いている】が、県・全国平均を上回る。
- 数学の授業において、【習熟の程度に応じた指導の充実】が県・全国平均を上回る。
- ▲理科の授業において、予想や仮説を発想することができるような指導が、県または全国平均を下回る
- 【対話活動・まとめ・表現】【個別最適な学び】【協働的な学び】が県・全国平均を上回る。
- 児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、ほぼ毎日授業で活用している。
- ▲児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器の持ち帰りについては、各学校で対応が異なる。

### 2 臼杵市の学校質問調査の結果をふまえて

#### 小中一体教育の充実

各中学校ブロックで学習規律を統一するなど、落ち着いた学習態度で授業が実践されている。

#### 理科の授業改善

めあて→問題→予想(仮説)→課題→実験→結果→考察→まとめ→振り返りの授業展開を徹底し、授業改善を図る。

タブレット端末の家庭への持ち帰りを推進する。